



マナビつうしん

令和2年3月30日(月)

子どもの確かな育ちと持続可能な地域づくりをめざす ～島根県益田市の試み～

<はじめに>

少子高齢化、若者の人口の流出等で、持続可能な地域づくりに悩んでいる市町村が多いのではないのでしょうか。また、最近の子どもたちの育ちがアンバランスだなあと感じている方も多いのではないのでしょうか。

昨年度、東京で行われた全国公民館研究大会において、島根県益田市の取組がスカイプで中継されました。昨年度1月の担当者会の折に簡単に触れましたが、益田市では現在3割の子どもが地元に戻ってきているけれども、将来5割、7割にし、戻ってきた子どもが活躍できるようにしたいと考えているそうです。そんな益田市の取組を簡単に紹介します。

<益田市の状況>

益田市は、山陰地方にある人口約4万7000人の地方都市で(平成31年4月現在)、直面しているのは、人口減少による各地区の存続危機。人口減少に拍車を掛けているのが、若者の都市への人口流出。現在、9割近くの若者が高校卒業時に益田市外に転出しており、その後のUターンも3割に留まっているそうです(平成27年 益田市総合戦略)。

さらに、中高生の4割が気軽な話をするのでできる地域の大人が0人と答えており(2018年度 益田版カタリ場 報告書)、「高校卒業後、あるいはいずれは益田に住みたい」と答えた高校生の割合が20%強にとどまっているそうです(平成22年の益田市総合振興計画策定時アンケート)。

<益田市の取組>

1 益田市の教育観

(1) 安全圏から踏み出してチャレンジできる教育

必要なチャレンジであれば勇気を持って踏み出し、現状を打破していく体験を積み重ねていくことで、自己発見や自己成長につながるプログラムや活動の場を設ける。

(2) 魅力化の教育で持続可能な地域社会を形成

地球的な視野や見識を持ちながら地域で活躍する魅力的な「グローバル人材」を益田から創出していく教育を推進していく。

(3) 地域総がかりで多様に関わり、人生の足場をつくる

大人になるまでにさまざまな人と、さまざまな環境で過ごす時間をできるだけ多くすることは、子どもたちの育ちにおいても、教育の質と量を担保し、大人になったときの生き方の選択肢を広げていくことにつながる。子どもたちを取り巻くさまざまな分野が連携し、地域総がかりで多様に関わり、子どもたちの挑戦を応援する環境を整えていく。

2 自分の人生を能動的に生きていくことができる力を育む「ライフキャリア教育」の推進

(1) 「ライフキャリア教育」とは

「将来、何になりたいか」から、「どう生きるか」へ。仕事観に加えて、趣味や地域での活動や理

想のライフスタイルも包含したキャリア教育が、ライフキャリア教育。

(2)「ライフキャリア教育」の概要

① 益田市とNPOカタリバの連携

平成28年度からカタリバの職員を「ライフキャリア教育コーディネーター」として、益田市に配置。「カタリ場」のノウハウを活用して、子どもたちと地域の大人が、本音で語り合う場を提供したり、共に地域で活動を行ったりする支援を行なっている。意図的に出会いの場を作り、地域の中での「ナナメの関係」を広げている。

- ・地域の大人が対話の機会を届ける、中学校カタリ場
- ・地域で働く大人と語る、高校カタリ場
- ・思春期を終えた高校生から、これから思春期の小学生へ
- ・カタリ場をきっかけに繋がった地域を舞台に、子どもたちの活動機会をつくる

②「ライフキャリア教育プログラム」の具体

○ひと（益田人100）との出会いを通じたプログラム

保幼・小・中・高など、すべての年代を通じて、活動の軸に「ライフキャリアを体現しているひと」との出会いを位置づけている。子どもたちが、各年代で「ひと」との出会いを積み重ね、出会いの輪を広げながら成長していくことを、プログラムとして体系立てる。

○地域での学びを豊かなものとするために、「in（地域の中で体験する・浸かる）」「about（地域について知る・伝える）」「for（地域のために行動・貢献）」「with（地域と共に未来を描く・結ぶ）」という発達段階を意識した取り組みを行う

<地域の中で体験する・浸かる（in）>

保育所や幼稚園などに通う幼児期には、知識よりも五感を通じて、自分が暮らす空間で起こる現象や地域における様々な存在を確認することが大切。「すごい」「ふしぎ」「すき」「おいしい」「たのしい」「うれしい」「こわい」など、身のまわりの存在や起こりうることに接触する機会を増やすことで、自らの感情が生まれ、環境と自分の存在を認識していくことになる。

<地域について知る・伝える（about）>

主に小学校期を通じて、地域で暮らし、活躍する人との出会いを通じ、現在の益田市像を知る活動。できるだけ多様な人材と出会い、話しを聴いたり、質問をしたりするコミュニケーションの場を重視する。

<地域のために行動・貢献（for）>

主に中学校期からは、「誰かのために」「地域のために自分たちができること」を考えながら、実際の貢献活動を通じたプログラムを展開する(for)。また、地域貢献や社会貢献といった観点を伝えられる大人との出会いをすることで、自分の興味関心と社会の中で必要とされることなどをあわせながら行動する機会を提供する。こうした活動を通じて、地域社会を「知識」だけでなく「自分が行動する場・活動する場」としてつかみとっていくことに重点をおき、実際の行動へつなげていく。

<地域と共に未来を描く・結ぶ（with）>

高校生期は、これまで(in/about/for)のプログラムで積み重ねてきた経験と成長を、実践的な社会と結びつける時期とし、その中で自分の進路目標や生き方を考えていくプログラムを提供する。地域社会における課題解決や挑戦を通じて「子どもではない自分」を試してみること、生徒自身がより能動的な生き方や進路目標を持つことへつなげていく。

<益田市の取組から学ぶこと>

- 1 市・市教委・地域・学校が一丸となって（縦割りではなくて横につながって）、地域に誇りや愛着をもてる子どもを育てようとしていること。
- 2 地域に誇りや愛着をもてる子ども、人生を能動的に生きていこうとする子どもを育てるために、幼児から高校生になるまで体系的に「ライフキャリア教育プログラム」を実施していること。
- 3 上記1と2のような横系（組織のつながり）と縦系（時間のつながり）によって、益田市の大人みんなが目的を共有して、子どもたちを育てていること。

<参考・引用>

益田市ホームページ カタリバホームページ「社会教育プロジェクト」

1年間、ありがとうございました

令和元年度が終わります。市町村教育委員会や小中学校の皆様には、大変お世話になりました。ありがとうございました。来年度もよろしくお願いいたします。

生涯学習課長 青柳 信雄

公民館や社会教育、人権教育、生涯スポーツに携わる様々な立場の方々、中信管内19市町村の「もの」や「こと」との出会いは、私の視野を広げてくれました。中信地区を再発見することができ、訪れてみたい場所がたくさん見つかりました。これからもそれぞれの地域のよさや可能性に目を向けて、地域づくりを進めていきましょう。

社会教育担当 中島 章

今年度、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休校があり、予測困難な状況を目の当たりにしました。そんな状況を、地域の企業が子どもを社内で預かったり、地域住民が新6年生の代わりに新年度準備をしたりするなど、地域の力を得て乗り越えようとしています。予測困難な社会を生きる子どものために、地域との連携・協働をさらに推進していきましょう！

社会人権教育担当 松井 秀文

「人権は、見えないけれど大切なもの。見えないものに気づけるのは、心の目が開いているとき」。ある小学生に教えられた言葉です。心の目が開く、素敵だけれど、ちょっぴりドキッとする瞬間を共にさせていただいた皆様。その素敵な学びの瞬間を多くの方と共有するために共に歩んでいただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

生涯スポーツ振興担当 宮田 宗人

今年度は、教室やイベントが思うように開催できないことがあり、もどかしい思いもされたように思います。そのような中でも、地域を元気にするスポーツ、レクリエーション等の事業を進めていただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。来年度も地域の方々の笑顔のため、いろんなことに負けず、みんなで頑張りましょう。3年間、ありがとうございました。